



戦後初の栄冠

高校野球 浪商日本一

東淀川区の人たちは地元校の勇姿に、
焼け野原から立ち上がる復興の姿を重ね合わせたことだろう。
戦後初の栄冠は東淀川区で輝いていた。

「第28回大会 閉会式
優勝した浪華商の場内一周」

朝日新聞社提供

夏の高校野球といえば甲子園球場だが、終戦後球場はGHQ（戦勝国による連合軍司令部）に接収されていたため、戦後初の大会は西宮球場で開催された。そして、そのときの優勝校が当時東淀川区淡路にあった野球の名門、浪華商業学校（浪商）だったことを知る人は少ない。

戦況の悪化により昭和16(1941)年から中止されていた全国大会。学校の野球部へも文部省から活動停止の通達があり、浪商部員たちは学徒動員でクラスごとに4カ所の軍需工場での勤務に明け暮れる日々だった。「一生懸命働いていたが、それでも野球がしたくて、休み時間に工員さんとキャッチ

ボールをしたのを覚えています」と語るのは、当時の野球部員だった島田雄三さん(85)。空襲があると電車が止まるので此花区桜島にある軍需工場から歩いて帰ったという。「当時は空襲が激しくなって、行き帰りにケガをした人や亡くなった方の姿をみて辛い思いをしました」。



島田雄三さん 山本英夫さん

同級生で誕生日が一日違いのお二人は現在も仲良し。浪商卒業後、島田さんは早稲田大学野球部で活躍。「幸せな野球人生でした」

昭和20(1945)年終戦を迎えたが、校舎は空襲で焼失。東淡路小学校の校舎を間借りし、野球部も30名の部員で活動を再開した。企業のグラウンドを借りるなどして春から練習試合を開始し、昭和21(1946)年夏、強豪校揃いの大阪府下54校の代表として全国大会に出場、見事優勝した。

島田さんは大会の様子を鮮明に覚えている。「お客さんも終戦後で娯楽に飢えてたんでしょう、戦後復興の象徴という感じ。大会は連日超満員で客席が白いシャツで真っ白になっていたのを覚えています」。敗れたチームは勝ったチームに監視の目をくぐって持参した米を渡しガンバレよと声をかけたという。

優勝後は阪急電車がお祝いに、貸切電車で西宮球場から箕面の合宿所まで送ってくれたそうだ。「球場近くの線路に板で仮設のホームを作ってくれて。驚きました」と当時のマネージャー山本英夫さん(85)。

「若い人には戦争のない今の時代に感謝し、母校や郷土のために、頑張ってもらいたい」かつての高校野球のスターは力をこめ語った。